

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2019年8月7日
【四半期会計期間】	第155期第1四半期（自 2019年4月1日 至 2019年6月30日）
【会社名】	塩野義製薬株式会社
【英訳名】	Shionogi & Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 手代木 功
【本店の所在の場所】	大阪府大阪市中央区道修町3丁目1番8号
【電話番号】	06(6202)2161
【事務連絡者氏名】	経理財務部長 松尾 健二
【最寄りの連絡場所】	大阪府大阪市中央区道修町3丁目1番8号
【電話番号】	06(6202)2161
【事務連絡者氏名】	経理財務部長 松尾 健二
【縦覧に供する場所】	塩野義製薬株式会社 東京支店 （東京都千代田区丸の内1丁目8番2号 鉄鋼ビルディング） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第154期 第1四半期連結 累計期間	第155期 第1四半期連結 累計期間	第154期
会計期間	自2018年4月1日 至2018年6月30日	自2019年4月1日 至2019年6月30日	自2018年4月1日 至2019年3月31日
売上高 (百万円)	88,524	79,225	363,721
経常利益 (百万円)	37,941	32,401	166,575
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	31,892	24,418	132,759
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	35,562	15,071	126,626
純資産額 (百万円)	627,462	671,954	672,429
総資産額 (百万円)	738,654	754,631	778,741
1株当たり四半期(当期)純利 益 (円)	101.45	78.43	424.31
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益 (円)	99.95	78.33	420.67
自己資本比率 (%)	84.3	88.4	85.7

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

なお、シオノギファーマ(株)は2019年4月1日付けで、主要な関係会社であるシオノギファーマケミカル(株)及びシオノギ分析センター(株)を吸収合併しております。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前連結会計年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等

財政状態

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は7,546億31百万円で、前連結会計年度末と比べて241億9百万円減少しました。流動資産は、抗インフルエンザウイルス薬ゾフルーザなどの季節性品目に係る売掛金の回収が進んだことなどにより、前連結会計年度末より182億7百万円少ない14,435億35百万円となりました。固定資産は、主に株価の下落及び為替の影響により投資有価証券が減少し、前連結会計年度末より59億1百万円少ない13,110億96百万円となりました。

負債合計は826億77百万円で、前連結会計年度末と比べて236億33百万円減少しました。流動負債は、主に法人税等の納付により未払法人税等が減少したことにより、前連結会計年度末より242億52百万円少ない1648億55百万円となりました。固定負債は、前連結会計年度末より6億18百万円多い178億22百万円となりました。

純資産合計は6,719億54百万円で、前連結会計年度末と比べて4億75百万円減少しました。株主資本は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上及び配当金の支払などの結果、前連結会計年度末より89億60百万円多い16,613億32百万円となりました。その他の包括利益累計額は、株価の下落によるその他有価証券評価差額金の減少及び為替の影響による為替換算調整勘定の減少などにより、前連結会計年度末より93億70百万円少ない157億60百万円となりました。また、新株予約権は前連結会計年度末より88百万円減少し4億38百万円、非支配株主持分は前連結会計年度末より23百万円多い144億23百万円となりました。

経営成績

当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高792億25百万円、営業利益289億57百万円、経常利益324億1百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益244億18百万円となりました。

売上高につきましては、前年同期比10.5%の減収となりました。国内医療用医薬品の売上高につきましては、戦略品であるサインバルタ及びインチュニブの売上高が順調に拡大した結果、前年同期比5.0%の増収となりました。海外子会社及び輸出の売上高につきましては、米国において、当第1四半期連結累計期間にバイオデリバリー・サイエンシズ・インターナショナル社とのSymproicの共同販売活動に関する業務提携に伴い一時金を受領しましたが、前年同期にパデュー社からSymproicに関する業務提携解消に伴う一時金を受領した影響が大きく、前年同期比14.0%の減収となりました。中国におきましては、ラベプラゾールの売上高が順調に拡大した結果、前年同期比61.1%の増収となり、海外子会社及び輸出の売上高は、前年同期比7.4%の増収となりました。ロイヤリティー収入につきましては、ヴィーブ社による抗HIV薬テビケイ、トリーメク及びジャルカのグローバル販売の順調な拡大を受け、同社からのロイヤリティー収入が前年同期比21.4%の増収となりました。一方で、前年同期に抗インフルエンザウイルス薬ゾフルーザのグローバル開発に伴うマイルストーンをロシュ社より受領したことにより、ロイヤリティー収入全体では前年同期比23.6%の減収となりました。

利益面では、国内医療用医薬品の売上高並びにヴィーブ社からのロイヤリティー収入が増加したものの、前述のロシュ社からのマイルストーン収入の影響が大きく、売上総利益は前年同期比13.2%の減少となりました。営業利益につきましては、前期に実施した戦略的事業投資の影響により研究開発費が減少した結果、前年同期比4.7%の増加となりました。経常利益につきましては、ヴィーブ社からの受取配当金の減少及び為替変動により、前年同期比14.6%の減少となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、前年同期比23.4%の減少となりました。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間における当社グループ全体の研究開発費は、118億78百万円となり、売上高に対する比率は15.0%となりました。

(4) 主要な設備

前連結会計年度末において計画中であった主要な設備の新設について、当第1四半期連結累計期間に完成したものは次のとおりであります。

会社名	事業所名	所在地	セグメントの名称	設備の内容	完成年月
シオノギファーマ(株)	金ヶ崎工場	岩手県 胆沢郡	医薬品事業	生産設備	2019.5

当該資産は、2019年4月1日付けで当社から100%子会社であるシオノギファーマ(株)へ分割しております。

3【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,000,000,000
計	1,000,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年6月30日)	提出日現在発行数(株) (2019年8月7日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	316,786,165	316,786,165	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	316,786,165	316,786,165	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当する事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当する事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

当第1四半期会計期間において、2019年満期ユーロ円貨建転換社債型新株予約権付社債に係る新株予約権が次のとおり行使されております。

	第1四半期会計期間 (2019年4月1日から 2019年6月30日まで)
当該四半期会計期間に権利行使された当該行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の数(個)	2
当該四半期会計期間の権利行使に係る交付株式数(株)	4,877
当該四半期会計期間の権利行使に係る平均行使価額等(円)	4,100.3
当該四半期会計期間の権利行使に係る資金調達額(百万円)	
当該四半期会計期間の末日における権利行使された当該行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の数の累計(個)	1,910
当該四半期会計期間の末日における当該行使価額修正条項付新株予約権付社債券等に係る累計の交付株式数(株)	4,625,616
当該四半期会計期間の末日における当該行使価額修正条項付新株予約権付社債券等に係る累計の平均行使価額等(円)	4,129.2
当該四半期会計期間の末日における当該行使価額修正条項付新株予約権付社債券等に係る累計の資金調達額(百万円)	

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2019年4月1日～ 2019年6月30日	-	316,786	-	21,279	-	16,392

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2019年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2019年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 5,498,700	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 310,985,800	3,109,858	-
単元未満株式	普通株式 301,665	-	一単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	316,786,165	-	-
総株主の議決権	-	3,109,858	-

(注) 上記「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が4,000株(議決権の数40個)含まれております。

【自己株式等】

2019年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
塩野義製薬株式会社	大阪市中央区 道修町3丁目1番8号	5,498,700	-	5,498,700	1.73
計	-	5,498,700	-	5,498,700	1.73

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	193,549	194,995
受取手形及び売掛金	65,918	44,240
有価証券	133,264	135,409
商品及び製品	18,741	18,963
仕掛品	7,272	10,332
原材料及び貯蔵品	14,097	11,589
その他	28,942	28,056
貸倒引当金	43	52
流動資産合計	461,743	443,535
固定資産		
有形固定資産	74,653	74,166
無形固定資産		
のれん	19,258	18,466
その他	35,511	34,587
無形固定資産合計	54,769	53,053
投資その他の資産		
投資有価証券	151,851	146,500
その他	35,765	37,418
貸倒引当金	42	42
投資その他の資産合計	187,574	183,875
固定資産合計	316,997	311,096
資産合計	778,741	754,631
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,442	10,020
1年内償還予定の社債	920	900
未払法人税等	35,870	14,040
賞与引当金	9,058	10,776
返品調整引当金	1,428	1,292
その他の引当金	166	-
その他	32,219	27,823
流動負債合計	89,107	64,855
固定負債		
退職給付に係る負債	11,930	12,080
その他	5,272	5,742
固定負債合計	17,203	17,822
負債合計	106,311	82,677

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	21,279	21,279
資本剰余金	20,512	20,512
利益剰余金	639,461	648,183
自己株式	28,882	28,643
株主資本合計	652,371	661,332
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	28,927	26,635
繰延ヘッジ損益	747	3,513
為替換算調整勘定	18,370	28,043
退職給付に係る調整累計額	3,826	3,655
その他の包括利益累計額合計	15,130	5,760
新株予約権	527	438
非支配株主持分	4,400	4,423
純資産合計	672,429	671,954
負債純資産合計	778,741	754,631

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位 : 百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
売上高	88,524	79,225
売上原価	11,913	12,735
売上総利益	76,610	66,489
販売費及び一般管理費	48,964	37,532
営業利益	27,646	28,957
営業外収益		
受取利息	445	807
受取配当金	9,756	4,907
その他	684	147
営業外収益合計	10,887	5,861
営業外費用		
支払利息	89	22
為替差損	-	1,272
その他	502	1,122
営業外費用合計	591	2,417
経常利益	37,941	32,401
特別利益		
固定資産売却益	1,246	-
特別利益合計	2,462	-
特別損失		
投資有価証券評価損	-	530
災害による損失	2,331	-
特別損失合計	331	530
税金等調整前四半期純利益	40,072	31,871
法人税、住民税及び事業税	12,573	8,641
法人税等調整額	4,980	1,136
法人税等合計	7,593	7,504
四半期純利益	32,478	24,366
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失()	586	52
親会社株主に帰属する四半期純利益	31,892	24,418

【四半期連結包括利益計算書】
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
四半期純利益	32,478	24,366
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5,270	2,292
繰延ヘッジ損益	1,383	2,766
為替換算調整勘定	3,975	9,598
退職給付に係る調整額	405	171
その他の包括利益合計	3,084	9,295
四半期包括利益	35,562	15,071
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	35,120	15,048
非支配株主に係る四半期包括利益	441	23

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

1. 固定資産売却益

前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

中国子会社C & O社の南京工場の売却によるものであります。

2. 災害による損失

前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

2018年6月18日に発生した大阪府北部を震源とする地震によるものであります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
減価償却費	4,146 百万円	4,085 百万円
のれんの償却額	743 百万円	448 百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月20日 定時株主総会	普通株式	13,831	44.00	2018年3月31日	2018年6月21日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月18日 定時株主総会	普通株式	15,564	50.00	2019年3月31日	2019年6月19日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年6月30日)及び当第1四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年6月30日)

当社グループは、医療用医薬品の研究開発、仕入、製造、販売並びにこれらの付随業務を事業内容とする単一事業であります。製品別の販売状況、会社別の利益などの分析は行っておりますが、事業戦略の意思決定、研究開発費を中心とした経営資源の配分は当社グループ全体で行っており、従って、セグメント情報の開示は省略しております。

(企業結合等関係)

共通支配下の取引等

1. 取引の概要

(1) 対象となった事業の名称及びその事業の内容

事業の名称：医薬品生産事業

事業の内容：医療用医薬品等の製造及び製造受託等

(2) 企業結合日

2019年4月1日

(3) 企業結合の法的形式

当社を分割会社とし、当社100%子会社であるシオノギファーマ株式会社を承継会社とする簡易吸収分割

(4) 結合後企業の名称

シオノギファーマ株式会社

(5) その他取引の概要に関する事項

当社グループの生産関連機能を担い、生産技術の革新的な発展を進めることで、高い品質と価格競争力を両立した製品を国内外の市場に向けて安定供給することを目的としております。

2. 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」に基づき、共通支配下の取引として処理しております。

3. その他の重要な事項

承継会社であるシオノギファーマ株式会社は、同日付で当社100%子会社であるシオノギファーマケミカル株式会社及びシオノギ分析センター株式会社を吸収合併しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益	101円45銭	78円43銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円)	31,892	24,418
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	31,892	24,418
普通株式の期中平均株式数(千株)	314,355	311,329
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	99円95銭	78円33銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額 (百万円)	3	0
(うち受取利息(税額相当額控除後) (百万円))	(3)	(0)
普通株式増加数(千株)	4,699	410

(重要な後発事象)

該当する事項はありません。

2【その他】

該当する事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年8月6日

塩野義製薬株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 林 由佳 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 神前 泰洋 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている塩野義製薬株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、塩野義製薬株式会社及び連結子会社の2019年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。